



学校だより 5月号

令和5年 4月28日

横浜市立新田小学校

子どもの好奇心・自己有用感

校長 村岡 靖

「校長先生、こっちに来て。」中休み、校庭に出ていると1年生の男の子からお招きがありました。1年生の男の子はしゃがみこんで一生懸命小さな虫を見ている。「テントウムシの幼虫だよ。」とキラキラした目で言いました。そしてテントウムシの幼虫がいた雑草も教えてくれました。「カラスノエンドウだよ。豆ができるんだよ。」校長室に戻って調べてみると、カラスノエンドウは栄養があって、アブラムシがたくさんつくそうです。それを食べにテントウムシやその幼虫等の虫が集まるそうです。カラスノエンドウの周りは虫の生態系が豊かになるのだそうです。1年生の男の子はそのことを実感としてわかっていたのでしょ。好きなものに対する子どもの好奇心と集中力はすごいなあとあらためて思いました。

その1年生を6年生がとてもよくサポートしてくれています。先日の1年生を迎える会では、6年生が1年生にかわいいメダルをわたしていました。1年生からありがとうと言われて、6年生の方がうれしそうに顔をしていました。これらの活動は1年生のためであるのですが、この活動を通して、6年生の自己有用感も育成しています。自己有用感是非常に大切で、自分が人や社会の役に立っている実感があると、自分に自信が持てるようになるのです。そして自分を大切だと思えると、人も大切にできるようになります。

アドラーという心理学者は「幸せになるために3つの要素が必要だ」と言っています。1つ目は自分の事が好きである事。人と比べて勝っているという優越感ではありません。あるがままの自分を好きでいられることです。2つ目は良い人間関係を持っていることです。自分を丸ごと受け入れてくれる人がいるということです。3つ目は人のために役立っているという思いです。まさに自己有用感です。ご家庭でもぜひ「あなたが大切だよ」「あなたがいて幸せだよ」と伝えてあげてください。

日本の子どもにとって、とても大切な法律「子ども基本法」が4月1日に始動しました。子どもは黙って大人に従うべき存在ではなく、自分の意見を言ったり、弱い立場を守ってもらえたりする権利をもつことを明記した法律です。新田小学校の子どもたちを一つの大切な人格として考え、子どもたちの意見を聞きながら一緒に学校を創っていきたいと思います。

社会で許されないことは、学校でも許されません。暴力や暴言、差別や偏見のない安心して過ごせる学校でなくてはなりません。子どもたちみんなが、お互いを認め合い、温かく安心でき、楽しく学ぶ事の出来る、希望や笑顔に満ちた学校を創っていきたいと思います。教職員一同、力を合わせ、「チーム新田」として子どもたち一人一人を徹底的に大切にする教育活動を進めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

(※4月21日学校説明会より)